

# みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071  
 社会福祉法人 松樹会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2190  
 URL <http://midori.jpn.org/> E-mail [midorii@io.ocn.ne.jp](mailto:midorii@io.ocn.ne.jp)

編集責任者：理事長 中村 猛  
 編集：季刊誌発行委員会

## 第7号所感

理事長 中村 猛



平成19年度に入り、真冬の真っ只中ですが、今冬はこの外暖かい日々が続いております。お陰でインフルエンザの発症は、暖冬のためか大変少なく、ばらばらで昨年暮れのノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が嘘のように感じられます。

世界情勢に目を向けますと、中近東を中心としたテロとの戦いは宗教戦争の様相を帯びて、深い泥沼にどんどん入り、今、北朝鮮を巡る6ヶ国協議が毎日のニュースをにぎわしております。

さて、わが国の医療、福祉分野では、この4月の新卒者採用に向けてスタッフのリクルートを行っていますが、大変採用が困難になってきております。医師は新臨床研修制度の発足から今まで、医師派遣の要であった大学医局離れの結果、在野の病院では補充がつかなくなり、最近の急性疾患加療のハードな業務のため専門医の専門分野からの立ち去りがおこり、急性医療の対応が困難になってきました。我々の枚方でも小児救急対策に続いて産科医、外科医等の減少がおこり、医療人が顔を合わせればその対策が話題となるのですが、妙案が出てきません。寝食を忘れ、専念出来る有志のグループで結成して、この急性期医療の対応を行っていくか、あるいはなすべがなければ一度灰燼と化し、新しい芽が生まれるのを待たねばならないのか、といった絶望的な意見も出ております。原価計算のなされていない診療報酬、労働条件の劣化した勤務、とりまく社会環境の悪化等、極めて若い世代の継承が困難になってきております。先日でも会社経営者の友人が、わが息子二人がすべて医師になったのはよいが、その法外な勤務条件の業務をこなしているのを心からなげいておりました。一方、看護師採用も昨年4月の診療報酬改定で、

手厚い7:1看護基準が設定され、絶対数の不足に拍車がかかり、リクルートの激化で病棟閉鎖に追い込まれた病院があちこちにおきております。

今、わが国のあらゆる分野でイノベーション(革新)の名のもと、従来の制度を破壊し、新たな制度擁立に向かったの取り組みが推奨され、行われております。その中に、今まで先人が築いてきた、人材、制度がことごとく崩壊され、それがあたかも良きシステムへの改革とされてきております。医療崩壊が、その焼け野原より、新しい芽がふきでて育つのか、取り返しのつかない断裂からスタッフ継承の不能な崩壊とならないか、危惧されるところです。

編集担当者からは冒頭の挨拶を明るい活力ある内容で語ってもらいたい、と要望があったのですが、アウトサイドもインサイドも取り巻く環境が、問題事項、取り組み、課題が山積みしてしまして、とてもそんな考えが浮かんでこないのが現状であります。ただ、何とか安全、安心した、より良いサービス提供を出来る組織作りには、それには1にスタッフ、2、3もスタッフの、技・知・心の養成、接遇の向上に専念せねばと実感を抱いております。

さて、私どもの両法人は複合的な医療、福祉施設を運営しておりますが、この4月より交北の地に特別養護老人ホーム“いこいの里”がオープン致します。全室個室で1ユニット10室単位の新型特養で枚方では最後となる施設ですが、障害をもった高齢者の方々が生涯安心して充実した毎日を送っていたけるよう、今担当スタッフがその準備と研修を積んでおります。

私もそろそろ色々な加齢現象の障害が出る年齢に入ってきて、ショートステイでも入って実施体験をつみ、その経験を生かしてより良い指示を出せるよう号令をかけたいと思っております。皆様の温かい御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

## 懐かしい童謡や唱歌の思い出

医療法人 みどり会 理事 中村 敏子  
 社会福祉法人 松樹会 理事 中村 敏子  
 つくしんぼ 藤阪 施設長



この頃、懐かしい童謡や唱歌が収められているCDを、通勤の車で毎日聞いています。

童謡に『あめふり』があります。雨が降ってきて母親に傘を持って迎えに来てもらった少年が、うれしそうに“ピッチピッチ チャップ チャップ ランラン”とリズムカルに歌っている。柳の下で雨にぬれている子供を見つけて“きみきみこの傘さしたまえ”と言って自分の傘を貸してあげる。たまえ

実に美しい日本語で響きも良い。傘を貸した後“僕ならいいんだ母さんの大きな蛇の目に入って”何だかここで目がうるうるしてきます。雨音の作り出す楽しいリズムと歌詞の美しさがとても好きです。

『背くらべ』は“柱のキズはおととしの5月5日の背くらべ”粽たべたべ兄さんが計ってくれたせいの丈、昨日比べてみると、やっと

兄さんの羽おり丈であったと、兄弟のほほえましい様子や子供の成長の物語があります。“柱にもたれりゃすぐ見える 遠いお山も背くらべ”山々がてんでに背伸びしていても、雪の帽子を脱いでさえ、一はやっぱり富士の山と、耳にやさしい言葉や擬態語を自然に取り込み、胸に響く旋律は、幼き日の家族で歌った記憶が蘇ります。

遠い日々母が歌っていた子守歌、父が宴席でよく歌っていた事、姉が歌のテストがあると、床の間の前に立ちソプラノ歌手の様に美しい声で歌っていた事、兄がよく口ずさんでいた『椰の実』。意味も分からず私も口にしていて、ようやく今になって理解できるようになったと思う。

今日も懐かしい歌の数々が収録されたCDを聞きながら心温かな気持ちで通勤しています。



## インフルエンザ考

副院長 傍島 徹



冬になるたびにインフルエンザの流行の恐れを心配するのですが、これ以外の時期にインフルエンザウィルスがどこに生息しているのかはあまり知られていません。このインフルエンザウィルスの生態に関する研究に日本人学者（北海道大学大学院獣医学研究科 喜田宏教授）が取り組み解明されたのです。

インフルエンザウィルスがシベリアからカナダのカモの営巣地である北方の湖沼で凍結保存され、カモの腸でウィルスが増殖し便から出ることを発見し、さらにカモからアヒル、ブタが宿主となり、人間のウィルスへと渡った経路を明らかにされたのです。

暖冬のため遅い日のインフルエンザシーズンになりましたが、今後は致死率の高い新型インフルエンザの存在も予想されています。

インフルエンザ予防接種はもちろん、日常生活でのインフルエンザ対策を考えましょう。

### ①うがいをする

口腔内には歯周病菌等多くの細菌がいて、インフルエンザウィルスと結託してインフルエンザを発病しやすくしています。うがいの励行により細菌やウィルスを洗い流しましょう。

### ②手洗いをする

手にウィルスが付着したまま口や鼻、目に触れると、そこから気道にウィルスが入り感染するので、しっかりと手洗いをしましょう。

### ③いつもマスクを着用する

感冒やインフルエンザのウィルスは乾燥すると増殖し、逆に湿度を高めると増殖を抑えるので、マスクを着用し口腔や気道粘膜からの水分で湿度を高めるのが大切です。とくに就寝中は口呼吸することが多く、就寝中もできる限りマスクをしましょう。

### ④口腔ケアを徹底する

ある特別養護老人ホームで週に1回歯科衛生士が歯磨きや舌磨きの指導、歯垢の除去といった口腔ケアを行い、実施しなかった施設と比べてインフルエンザの発生が10分の1に激減。口腔ケアは病気の予防に役立ち、特に細菌が増えやすい夜の歯磨きを念入りにしましょう。

### ⑤ヨーグルトを食べる

国際健康開発研究所の家森幸男所長らはカスピ海ヨーグルトを食べることによりインフルエンザ予防接種効果の向上が明らかとなり、免疫細胞の働きが良くなるという結果が出た。ヨーグルトは腸内の善玉菌を増やし、同時に悪玉菌を減らして腸内の環境を整え免疫力を高め、インフルエンザ対策に役立ちます。

## 中村病院の企業健康診断

企業健診部 宮川 修司



日本は世界で有数の長寿国です。人々にとって健康であることは何よりの宝・財産であり、又、目指すべき命題でもあります。

中村病院では各企業の健康保持や健康づくりを通じ、働く人々が健やかな職場生活を送れる様に企業向けの健康診断を行っております。

企業の法定検診は年に1回、定期的に行う様に労働基準法で定められています。又50人以上の従業員を抱える経営者はその定期的に行った健康診断の結果を所轄の労働基準監督署に報告する義務もあります。

当病院では受診者が多数おられる場合は一週間位に渡り分散して来院（出迎えもあり）していただくことも出来ます。30名を越える場合は検診車が出向くことも可能です。

いずれの場合も健診にかかる時間を短縮して、勤務時間への影響を少なくする事を勘案しています。検査項目は労働基準法に従って行っておりますが、オプションで項目を追加することも出来ます。

受診者が無理なく健診を受けられ、自分の体についてよく御理解を頂く事により、疾病の早期発見と共に、生活習慣病の予防の一助になりたいと考えております。

受診後は2週間以内に個人別に結果表と管理者用に全員の一覧表をお届け致します。

日程・料金その他詳しくは担当者まで。

おろそかになりがちな二次検査も是非当院を御利用ください。



## 在宅部門

### 地域包括支援センターとの繋がり

在宅介護支援センターつぐみ 所長 丹井 美智代



地域包括支援センターが市内に7箇所設置されてから、約1年が経過した。

当初「地域包括支援センターって何をするとところ？」と利用者だけでなく、私たちケアマネジャーも思ったものである。が、1年経過した現在ではなくてはならない存在になっている。

まず、地域包括に配属されている主任ケアマネジャーの存在である。以前は利用者

とのトラブルやサービス事業所との揉め事など誰に相談していいものやら、また相談したくても敷居が高かったりなど悶々とする事もあった。が、今では地域包括の主任CMに相談し客観的な目で判断していただき、助言を頂戴している。また、地域包括支援センター主催の懇親会などに参加させていただき、いままで交流のなかったCMとの交流の場を提供していただいている。

その他、今までは自分が立案したプランを第三者の目で評価してもらおうことなど『枚方市介護支援専門員連絡協議会』主催の地区定例会の事例検討会および実地指導以外では皆無だったが、自分の担当利用者が「要支援」に認定された場合、地域包括の保健師・看護師分野の方にプランの良し悪しを確認していただき、適切なアドバイスをもらっている。また、包括の社会福祉士の方には人権擁護など我々が不得手な分野でフォローしていただいている。これ以外でも訪問介護ステーションの職員との連携を積極的に図っていただいたり、他のクリニックの主治医の先生方との橋渡しを依頼したり、何かと連絡を密に取り業務が円滑に流れていけるよう配慮していただいたり、行政関連の最新情報を提供していただいたりなど、様々な面でお世話になっている。

今後は、お世話になるだけでなく、我々側から最新情報を発信したり何か提案を挙げたりなど相互扶助の関係を保ちつつ、業務の連携を図っていききたいと望んでいる。

## 私のやりたいこと

施設長 **岡田 弘**



なごみの里は、枚方市の北東部、JR学研都市線の長尾駅から北山ボエム方向にある介護老人保健施設です。周囲は学校や田んぼに囲まれた静かな環境です。ここに、入所の方約150人、通所の方(朝来られて1日を過ごし、夕方家庭へ帰られる方)が約50人居られます。

こうした介護を要するお年寄りを預かるわれわれとしては、まず第1に安心・安全な施設でなくてはなりません。従来から職員

全体が一丸となって事故防止、大は災害の防止から、小は転倒の防止にいたるまで、気をつけてまいりました。

小さな事故で一番多いのは転倒です。お年寄りの転倒は、打撲はもちろん骨折にもつながりますので、今年のはっきりと転倒事故を減らすことに重点を置きたいと思います。なにぶん限られた人数で看護・介護を行っていますので、目の届かない時や場所もありますが、各職員が細心の注意をもって入所・通所されている方の安全を守りたいと思います。

次に、「人生いろいろ」と言いますように、入所の方でも通所の方でも、自分の育った環境、受けた教育、従事した職業、築き上げた家族関係がそれぞれ異なり、皆さんに満足の行くような時間を過ごしていただくことは不可能です。そこで私たちは、いわゆる趣味を大きく分けることを考えております。絵画、手芸、書道、料理、音楽、映画、紙芝居、ときには演芸や舞踊などに参加してもらったり、鑑賞していただくことを年間を通じて企画しています。限りある建物内でこのような多様な催しをするために、コーナーに分けたり、また会場や小部屋を用意したりして、どなたでも参加できるようにいたします。

最後に、なごみの里は入所・通所の方に利用していただくだけでなく、地域の介護の中心にならないといけないと考えております。したがって、看護・介護の必要なお年寄りの居られる御家族の方は、困ったことがあればどんなことでも気軽に、なごみの里の受付まで相談に来ていただきたいのです。支援相談員または介護支援専門員が責任をもって御相談いたします。以上本年の重点事項について私の考えていることを述べました。おおかたの皆さんの御協力をお願い申し上げます。

## 中村記念病院

### 医療ソーシャルワーカーとして

課長代理 **伊内 康宏**



中村記念病院は、平成18年5月に開院し、同年9月から全床83床回復期リハビリテーション病棟(以下回復期リハ病棟)として運営しております。医療機関、公的機関、介護保険事業所等のみなさまのご協力をいただき、リハビリテーション病院として運営を行うことができていることを、この場をおかりして御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、回復期リハ病棟を持つ病院の大きな役割は、自宅への復帰です。急性期病院(※)から回復期リハ病棟へ転院後の自宅への復帰率は全国平均66.3%で、当院は平均61%(9月~12月)となっています。こういった「急性期病院→中村記念病院→自宅」という回復期リハ病棟の理念を背負って、当院は日々模索し、現在運営しています。

その中で、私たち地域医療相談室の医療ソーシャルワーカーは毎月、新規・継続の患者さまを合わせると、約100名近いご相談に応じております。入院中の医療費の問題、自宅への復帰を妨げる様々な問題、在宅介護の問題、しいては家屋自体の問題など多岐に及んでいるのが印象です。特に印象深いのは、就労復帰のため車の免許更新ができるのかといったご相談でした。普段意識しない「生活」というものは、箇条書きにはとてもできないほど多岐にわたり、つながっているものだとことを実感しています。

急性期からの連携プレーをより円滑に行い、患者さま・医療機関さまにとって不足無いよう、入院相談を受け付けさせていただきます。そして、リハビリテーションを通じて、生活の再構築していかれる患者さまのより良いお手伝いができるよう支援していきたいと考えております。

(※) 枚方市であれば、関西医大枚方病院、京阪奈病院、佐藤病院、枚方市民病院、星ヶ丘厚生年金病院 さま等

### リハビリテーション部門活動報告

リハビリテーション科 課長 **清家 康伸**



中村記念病院が開院して10ヶ月が経とうとしています。中村記念病院は回復期リハビリテーション病棟を始めとしてリハビリ中心の病院です。ここで私たちセラピスト(訓練士)は様々な手段を使い患者様の社会復帰、職場復帰のお手伝いをさせて頂いております。

セラピストは理学療法士(PT)10人、作業療法士(OT)7人、言語聴覚士(ST)

2人という構成です。それぞれの専門分野で1人の患者様の訓練を行っています。理学療法は主に座る、立つ、歩くといった基本的な動作の訓練、作業療法はトイレ動作、入浴動作、食事動作などの日常生活に必要な動作の訓練、言語聴覚療法は障害によりコミュニケーションの障害(言葉が出ない、言葉が理解しにくい、文字が理解しにくい等)に対し訓練し、また食事のとき食べ物、飲み物を飲み込みにくい(嚥下障害)といったことに対しても訓練を行います。

中村記念病院では患者様の病状、症状にあわせ必要に応じ訓練の内容、量を検討します。量については1日最大3時間の訓練の提供を目標に頑張っております。本年4月には新しくセラピストを増員し、

より質の高いリハビリテーションを提供いたします。

さて質の高いリハビリテーションとはいったいどのようなものなのでしょうか？私が考える質の高いリハビリテーションとは、セラピストの技術や知識ではなく「いかに、患者様の事を考え必要なリハビリを提供できるか」にあると思います。これにはリハビリ室で獲得した動作、能力を病室や家で使えるように看護師、介護士と共同してチームを組み病院全体で働きかける事がポイントであると思います。これからもスタッフ一丸となってより質の高いリハビリテーションの提供を目指し頑張っていきたいと思っております。



歩行訓練



リハビリ室

## 特別養護老人ホーム「いこいの里」 サービス提供内容について

開設準備室長 岡崎 基



特別養護老人ホームいこいの里も開設までいよいよ残り約1ヶ月とせまってきました。現在は実行委員会において各種サービス内容の決定について大詰めの段階を迎え、種々検討を重ねている次第です。

さて、今回はその中でも日常生活において欠かすことのできない「食事」の提供方法について現時点で決まっていることについて簡単ではありますが、お話ししたいと思います。

「食事」は入居者にとって、大きな楽しみのひとつです。さらにユニットケア（在宅に近い環境で入居者個々の生活リズムに沿い、日常生活を営めるよう介護すること）であることをふまえ、どうすれば「食事を楽しむ」ことができるのか、あくまで「施設の」でなく「家庭的」な雰囲気を出したら作り出せるのか、を常に思索しながら取り組んできました。まず食事時間は、朝食8時～9時、昼食12時～13時、夕食18時～19時がおおよその目安です。基本的な考え方として、決まった時間に縛られることなく、入居者が食事を希望された時に提供できる環境が望ましいと考えております。上記の時間はあくまでも目安と思っておられれば幸いです。

次に、食事の準備から片付けは介護スタッフが行います。おかずや米飯の盛り付けから片付けまですべて各ユニットで行う形なので、入居者にも食器を下げたり洗い物をしたりと作業をして頂けるようになり、そこには日常的な風景が生まれます。

さらには、食事・食卓にも華やかさや家庭的な空気を作り出す為、ランチョンマットの使用や食器の種類についても検討するなどささいなことではありますが、「雰囲気」を重視したものにしていきたいと考えております。

これら以外にも、さまざまな配慮や工夫がまだまだ必要になると思います。それに際し常に大切なことは「食の楽しみ」を作り出す、また介助者も入居者と一緒に食事を楽しむゆとりを持つことだと考えております。



スライドインパス



ディサービス浴室

## 平成18年度新入職員研修 ～新卒者グループ研究中間発表を終えて～

昨年4月新入職員を55名迎え、卒後教育として新卒者33名を対象とした課題研修（グループ研究）を昨年11月21日から開始していますが、1月26日に中間発表会を行いましたのでその結果を一部報告致します。

対象者は、中村病院、中村記念病院、なごみの里に所属し、職種もそれぞれ異なりますが、この研修の目的は、職種の違った職員が、1つのグループで協同作業を通して、研究の意義、方法を学ぶと共に、主体性、強調性を習得し、日常業務の中で、“気づき”や“問題意識”を持つ事が出来ることを狙いとしています。実際には、9グループでそれぞれメンバーが持っている身近な問題からテーマが選ばれ、また課題に対しての問題解決の方向性も出され、多忙な業務の中で、主体的に取り組まれている事が伺えました。進捗状況は、各グループ毎にまちまちですが、発表を行い聴いた事で、各自が今後の課題も整理できたのではと推察致します。最終発表会は、3月8日（木曜日）中村記念病院・理学療法室にて理事長を始め、諸先生、日頃何かと指導を賜っている先輩の方々にも参加を頂き、研究の成果をご指導、ご助言を頂き、今後医療法人みどり会に貢献して頂くことを期待致します。

なお、各グループのテーマは下記の通りです。

（記 教育担当 森）

- |                   |                        |                            |
|-------------------|------------------------|----------------------------|
| (1) 電解質のカリウムについて  | (4) 各専門領域における言葉の重要性    | (7) 他職種間の情報の共有化            |
| (2) 急性期リハの重要性について | (5) 認知症の方とのコミュニケーション方法 | (8) できるADLとしている差を埋める為には    |
| (3) 現行の医療制度と臨床の見解 | (6) できるADLとしているADL     | (9) リハスタッフとケアワーカーのギャップについて |

## 各施設連絡先

### 社会福祉法人 松樹会

(4月開設)

特別養護老人ホームいこいの里 072-898-2197  
 居宅介護支援センターつくしんぼ 072-868-4394  
 つくしんぼ長尾 072-868-2190  
 デイサービスセンター長尾 072-868-2190  
 有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190  
 つくしんぼ藤阪 072-868-2191  
 たんぼぼ藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280  
 居宅介護支援センターつぐみ 072-836-8281

### 医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071  
 地域医療相談室 072-868-2071  
 中村記念病院 072-868-2070  
 なごみの里 072-868-2072  
 配食サービスセンターなごみ 072-868-2072  
 みどり介護学院 072-868-2194  
 たんぼぼ長尾 072-868-2195  
 居宅介護支援センターなごみ 072-868-4391  
 訪問看護ステーションみどり 072-868-4392  
 訪問介護ステーションみどり 072-868-4392  
 枚方市地域包括支援センターみどり 072-845-2002

### 編集後記

みどりの風第7号を発行させていただきましたが、平成19年度に入り初めての季刊誌ですので、各施設責任者の話を中心に構成させていただきました。特養「いこいの里」が4月の開設後は、お陰様で両法人の組織構成も大きくなりますが、同時に地域社会に対する責任も大きくなってまいります。そのことを自覚し、皆様に喜んでいただける「患者様中心の医療とは」というテーマで今年度の事業項目をあげ取組をすすめております。

季刊誌編集委員会  
 連絡先 ☎072-868-2071  
 法人本部 松田